



〈栗島浦村〉

360人が暮らす栗島浦村村長 本保健男 訪ねて

新潟県岩船郡栗島浦村。日本海に浮かぶ周囲23kmの島。人口360人の自治体。平成二十年の村上市併には参加せず、独立村を選挙した。直航便が平日限定で一日一便出るというので、あんしん取材班は企画した栗島浦村の村長を訪ねた。朱鷺メッセ前から高速双胴船「Waterline」から乗船。定員170人のところ乗客は約20人。午後1時に出発。海は穏やか。安定したスピードで揺れもなく午後2時30分栗島港に着。緑豊かな意外と大きな島だと感じた。船を降りると、若

職場体験に来ていて「こんにちは！」と元気よく出迎えてくれた。一路港から歩いて3分の栗島浦村総合庁舎へ。栗島浦村の本保健男村長(64)を訪ねた。3期目の終盤を迎えた。本年9月に村長選挙が行なわれる。村の一般会計予算は約11億円。村内の税収は約3千5百万円。国・県からの交付金が栗島浦村を支える。新潟県栗島航路に実績です。ね100%国からの補助金です。6月29日、7月20日までの期間限定運航。大人片道4,800円。子ども2,400円。栗島にはレンタカーが無い。その理由

を村長に伺うと、「レジャーカ―を利用する密漁ですね。島の人は各家が漁業権を持っていて漁が生活の糧なのです。あと、島の環境を守るといいう意味で、フェリーでの一般のマイカーも島には入れません」と納得。正に村民の生活が第一となっている。栗島浦村では「しおかぜ留学」を実施しており、栗島浦小中学校(小・中3まで)に入学または転校を希望する児童・生徒を全国から受け入れ、島民との交流、栗島馬との交流などを中心とした豊か個性豊かな教育体験をもつ「しおかぜ留学」の子どもたちと共に

社会を生き出し、社会に貢献する人となることを目的としている。現在は県外から11人が寮で生活しており、一組の親子が島に移住している。診療所には看護師が2名在勤し、医師の診療は提携先の病院とテレビ遠隔診療を行なっている。今後の栗島浦村について本保健男は、「産業を安定させること。島民が安心して住むのに必要な医療、介護を充実させ雇用を生む。栗島フェリーは新たに10億円かけて新しく造船しています。島を守り、先を見守ることに進めたい」と、本保健男の情熱は素晴らしい。村長との面談を終え、民宿「かね重」の主人、脇川文樹さん(64)が車で迎えに来て下さった。脇川さんは栗島浦村の村議会議員で現在2期目を務めている。栗島ぐる

り一周道路と島内の名勝旧跡を案内して頂く。一番高い山で、栗島灯台のある小柴山(285M)。集落は栗島港、総合庁舎のある、内浦地区。と釜谷地区の二つの集落があり、他は山で水稲は新潟地震以来米づくりは行なわれていない。地元の村議会議員の脇川さんは栗島の細部に亘って現在、過去の歴史を説明して下さった。村宮の日帰り温泉施設「漁火温泉」と「姫の湯」で汗を流す(大人500円、子ども200円)夕食はかね重の主人が包丁を握った。鯛と飛び魚の刺身、女将さん自慢の手作り「エゴ」。栗島名物の新ジャガ、飛び魚の唐揚げが並ぶ。スナック等は無く、静かに夜は更けて行く。翌朝、栗島漁業協同組合での定置網の水揚げに立ち合う。栗島牧場には立ち寄り栗島馬の調教を見学。栗島売店では島の元気な高齢夫婦の溢れる独立国、栗島は是非訪ねて下さい。

▶朱鷺メッセ乗船場 ▶本保村長(左)と取材班長 ▶本保健男村長 ▶展望台からの早京観 ▶民宿「かね重」脇川夫妻 ▶栗島漁協 ▶栗島牧場(栗島島)



